

ADVANTEST®

2020年度（2021年3月期） 決算説明会

2021年4月27日
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ご注意

会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

将来の事象に係る記述に関する注意

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。



2020年度決算報告

取締役 兼 常務執行役員 藤田 敦司

FY20業績ハイライト

- FY20ははじめから夏場にかけて、コロナウイルス感染症拡大および米中対立といった外部要因によりテスト市場の不透明感が高まる
- しかし、WFH（ワーク・フロム・ホーム）関連需要や5Gスマートフォンメーカー間の競争などにより、下期は顧客の投資意欲が急回復
- 結果、FY20通期で過去最高の受注高・売上高・当期利益を達成
- 当社として初めて通期売上高3,000億円を超過。記念配当10円を加えた期末配当80円へ、配当予想を修正
- 3カ年中期経営計画の経営指標も目標を大きく上回り全て達成

FY20業績概要

(億円)

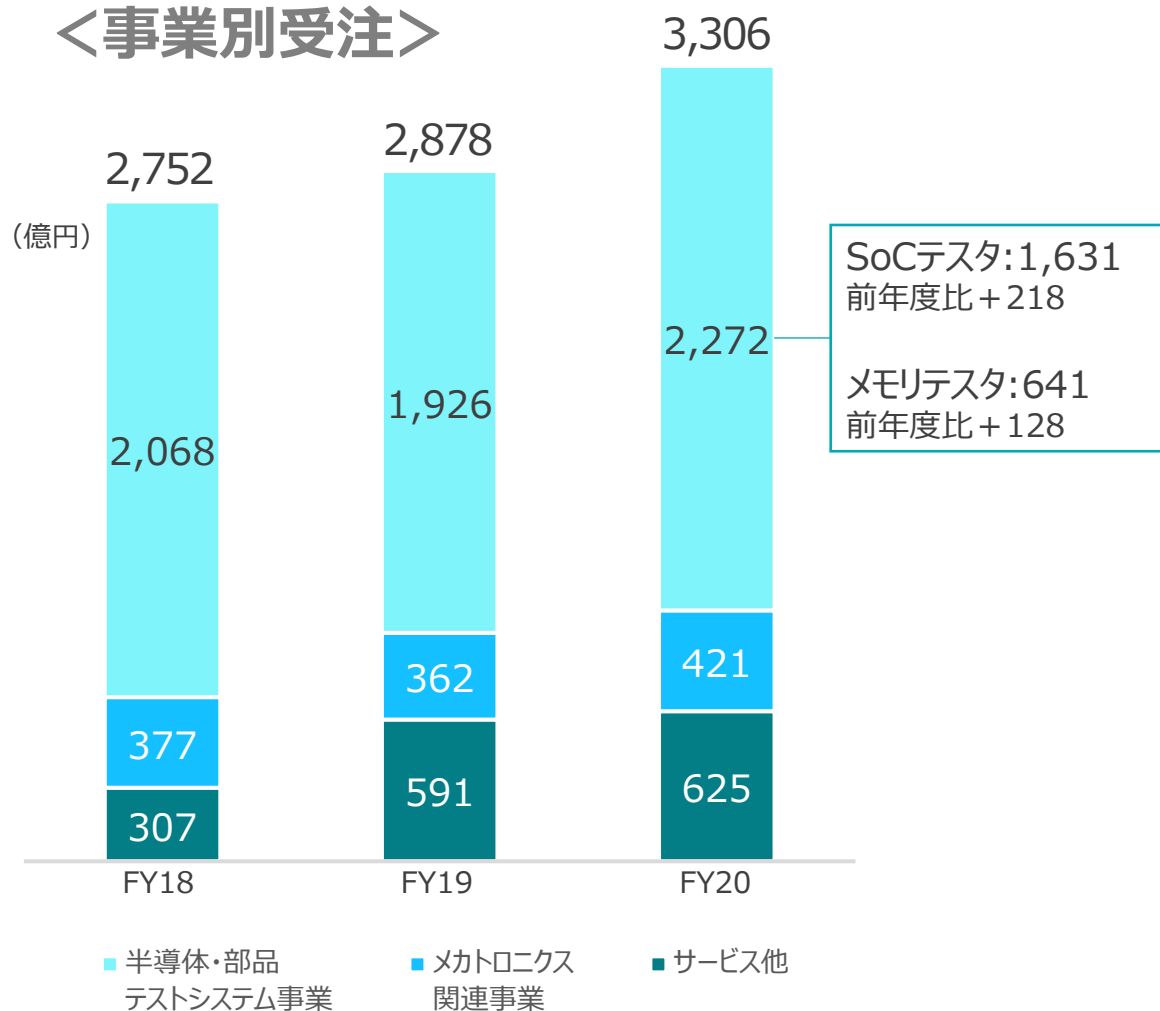
	FY19		FY20		
	実績	1月時点 予想	実績	前年度比	
				増減額	増減率
受注高	2,878	3,100	3,306	+428	+14.9%
売上高	2,759	3,050	3,128	+369	+13.4%
営業利益	587	670	707	+120	+20.5%
営業利益率	21.3%	22.0%	22.6%	+1.3pts	
税引前利益	586	640	696	+110	+18.9%
当期利益	535	615	698	+163	+30.4%
当期利益率	19.4%	20.2%	22.3%	+2.9pts	
受注残	910	960	1,088	+178	+19.6%
為替レート	1米ドル	109円	106円	106円	3円 円高
	1ユーロ	121円	122円	123円	2円 円安
1株当たり配当額 (年間)	82円	95円	118円*1	+36円*1	
自己株式取得額	-	-	131	+131	
総還元性向*2	30%	-	52%	+22%	

* 1: FY20の期末配当は2021年5月21日開催の取締役会において正式決定する予定です

* 2: 総還元性向 = (配当総額 + 自己株式取得額) ÷ 当期利益

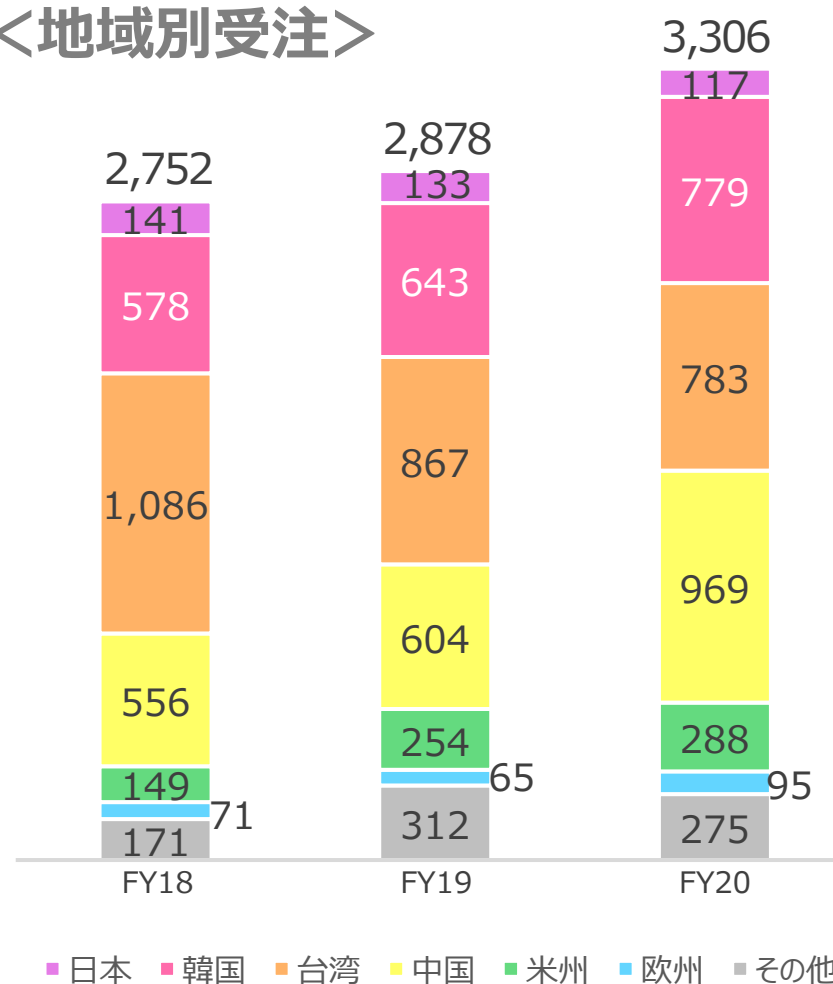
FY20受注実績 年度比較

<事業別受注>



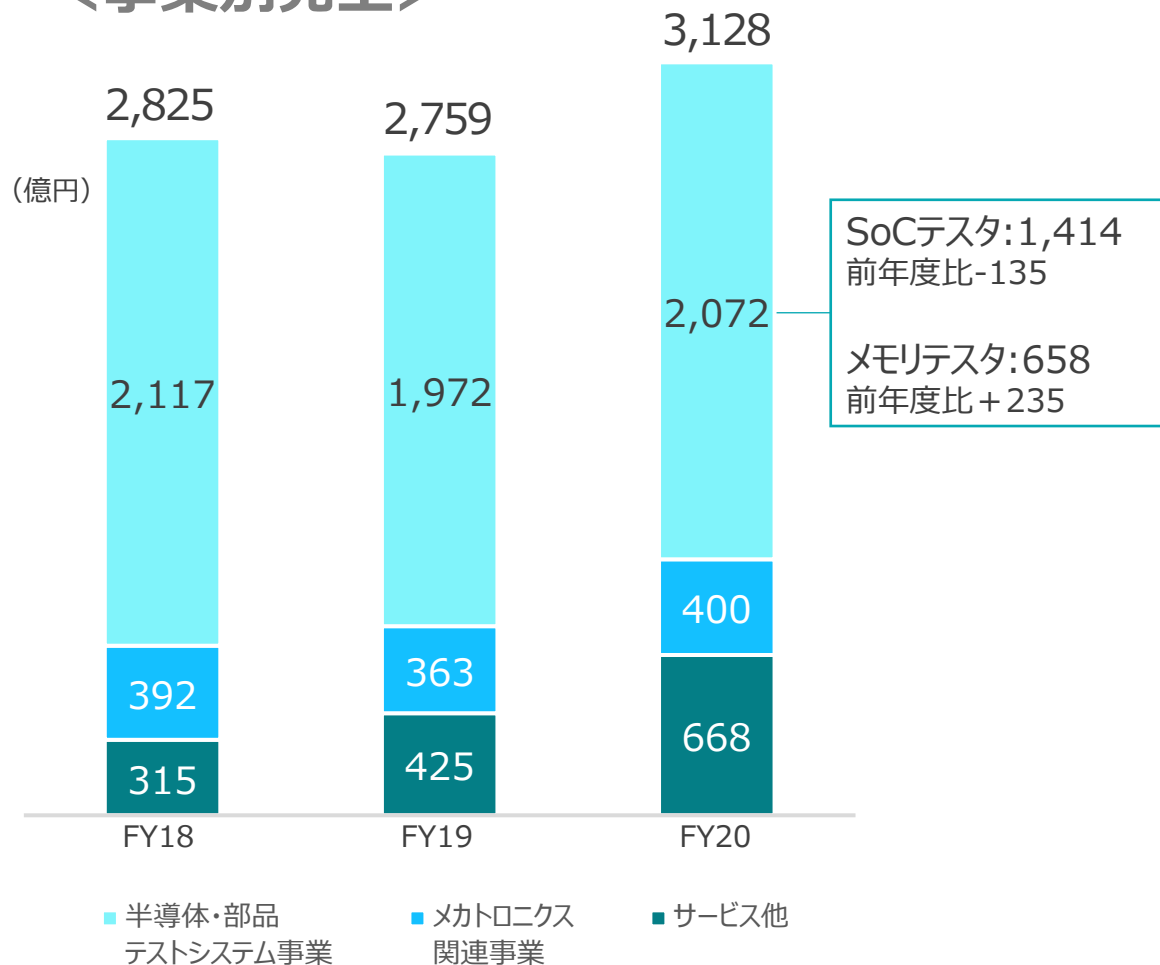
*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

<地域別受注>



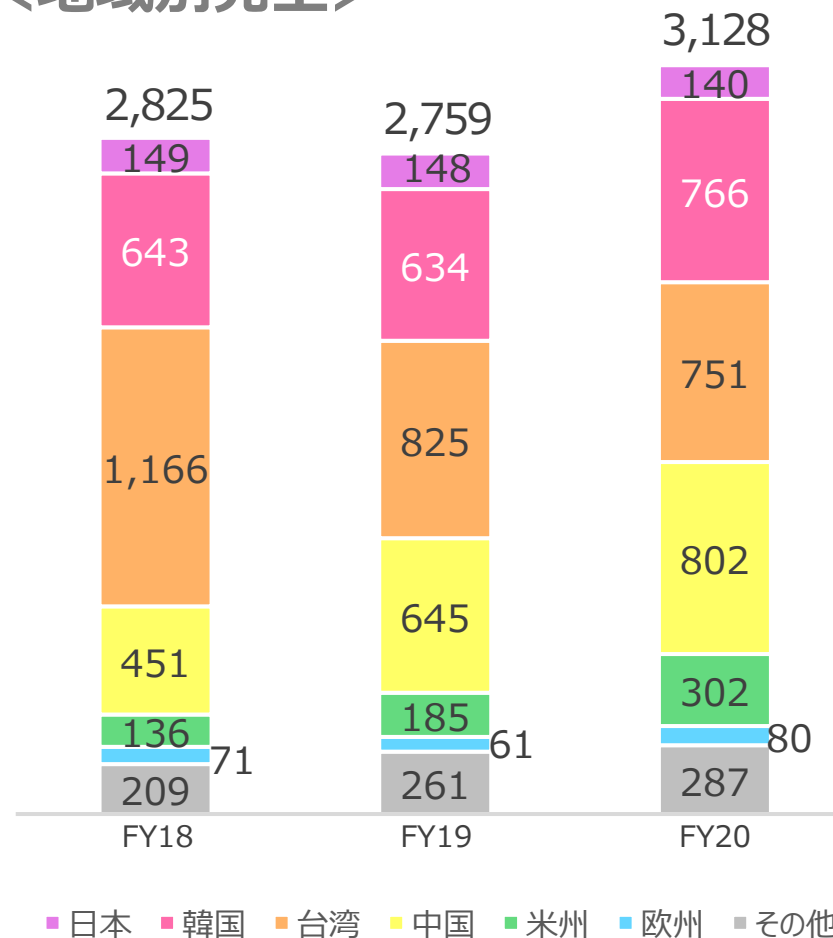
FY20売上実績 年度比較

<事業別売上>



*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

<地域別売上>

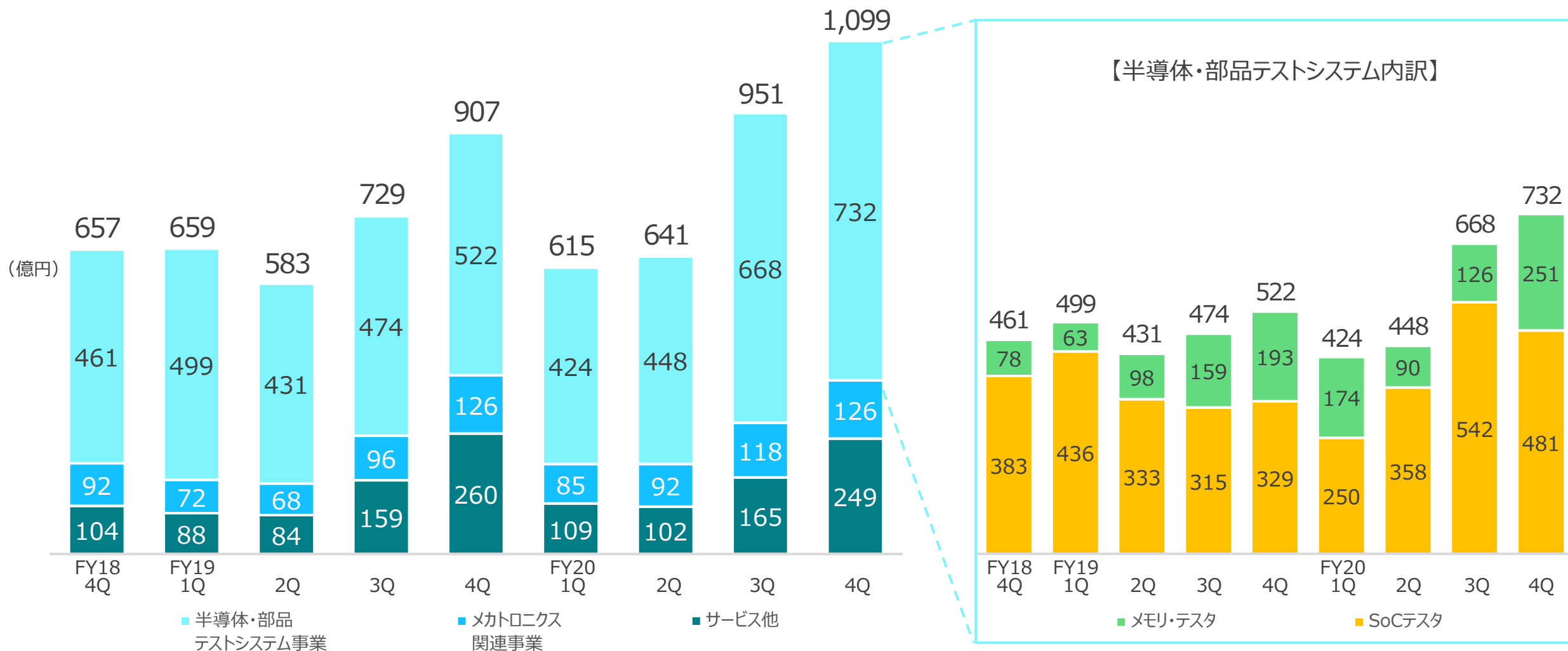


四半期業績推移

(億円)

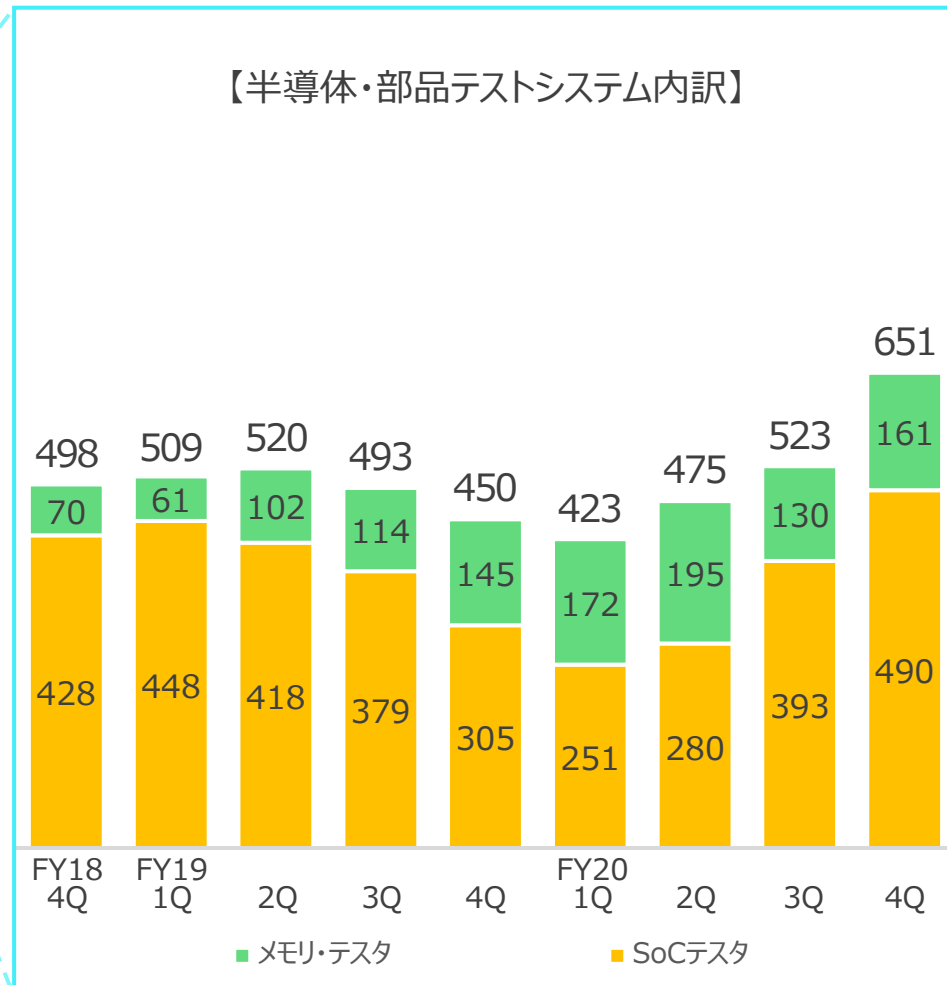
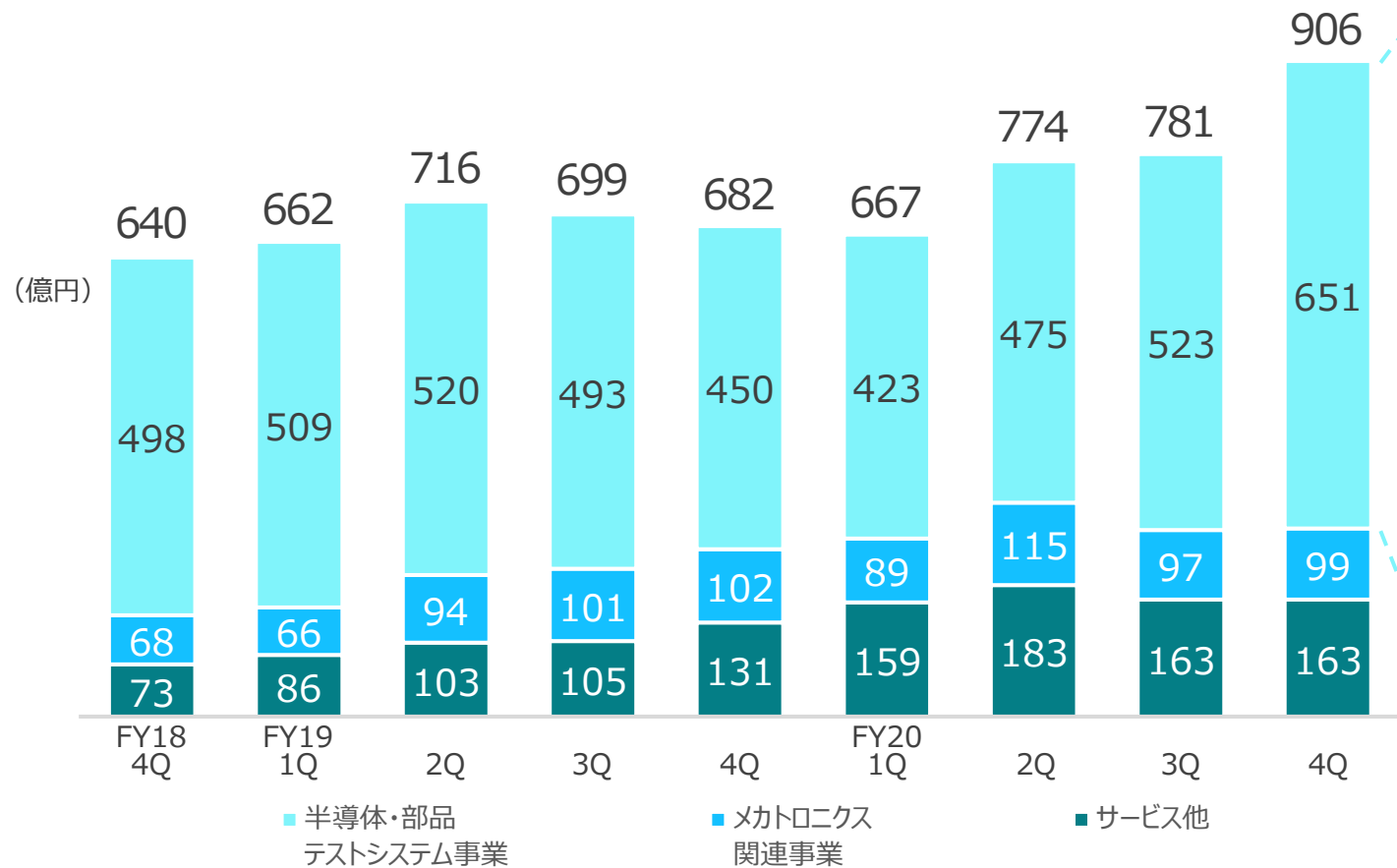
	FY19				FY20				4Q		前期比		前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	予想	実績	増減額	増減率	増減額	増減率	
受注高	659	583	729	907	615	641	951	893	1,099	+149	+15.7%	+192	+21.2%	
売上高	662	716	699	682	667	774	781	828	906	+125	+16.1%	+224	+32.8%	
売上総利益	394	410	394	367	380	416	402	-	485	+83	+20.6%	+118	+32.0%	
売上総利益率	59.5%	57.3%	56.4%	53.8%	56.9%	53.9%	51.5%	-	53.5%	+2.0pts		-0.3pts		
営業利益	152	177	142	116	135	174	153	208	245	+93	+61.1%	+130	+112.0%	
営業利益率	22.9%	24.8%	20.4%	17.0%	20.2%	22.6%	19.5%	25.1%	27.1%	+7.6pts		+10.1pts		
税引前四半期利益	149	184	145	108	129	164	139	208	264	+126	+91.0%	+156	+144.5%	
四半期利益	121	147	119	148	106	139	120	250	333	+212	+176.6%	+184	+124.5%	
四半期利益率	18.3%	20.5%	17.1%	21.7%	15.8%	18.0%	15.4%	30.2%	36.7%	+21.3pts		+15.0pts		
M&Aに伴う受注残の増加				+42										
受注残	746	613	643	910	857	725	895	960	1,088	+193	+21.6%	+178	+19.6%	
為替レート	1米ドル	111円	108円	108円	110円	108円	107円	105円	105円	104円	1円 円高		6円 円高	
	1ユーロ	125円	121円	119円	121円	118円	123円	124円	125円	127円	3円 円安		6円 円安	

四半期受注高 事業セグメント別



*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

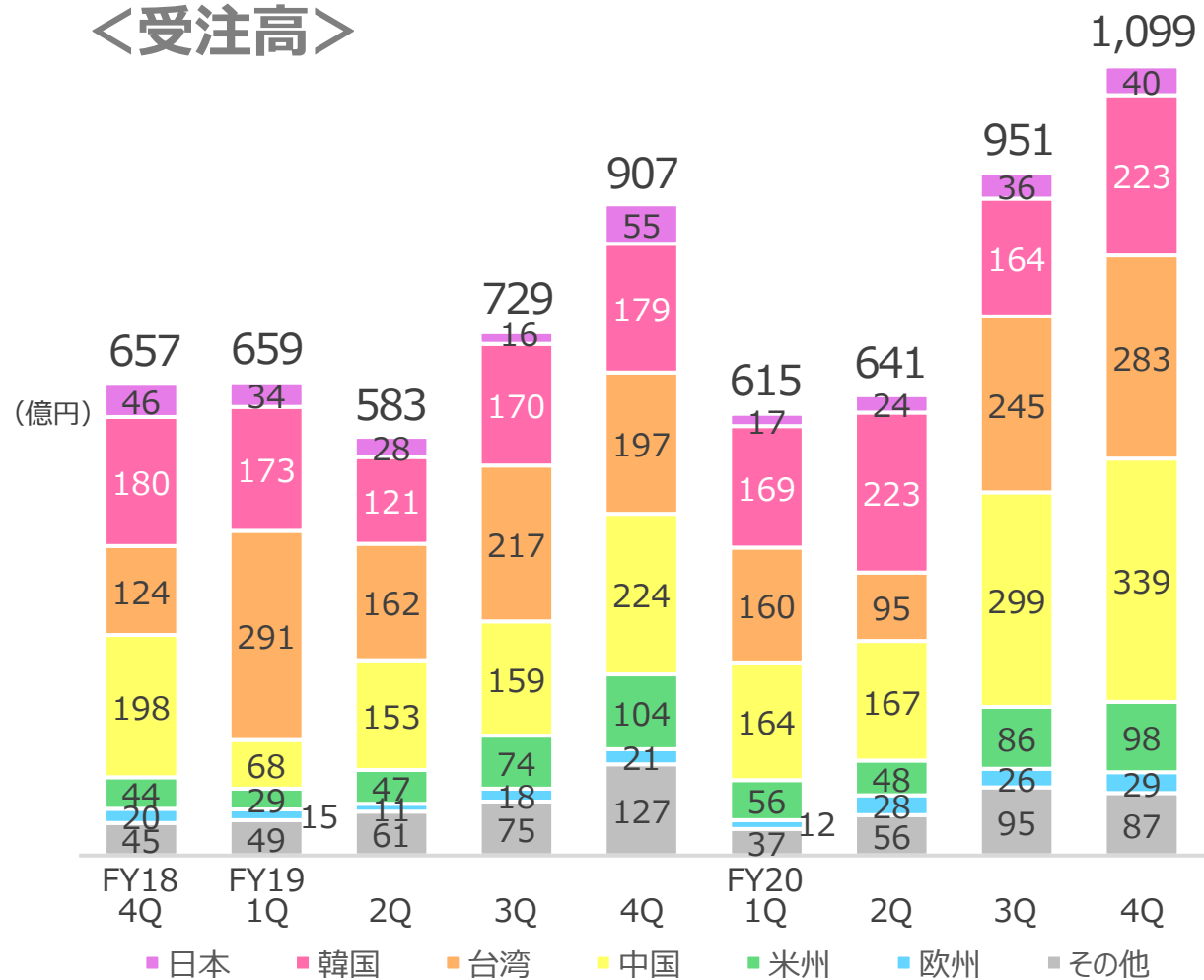
四半期売上高 事業セグメント別



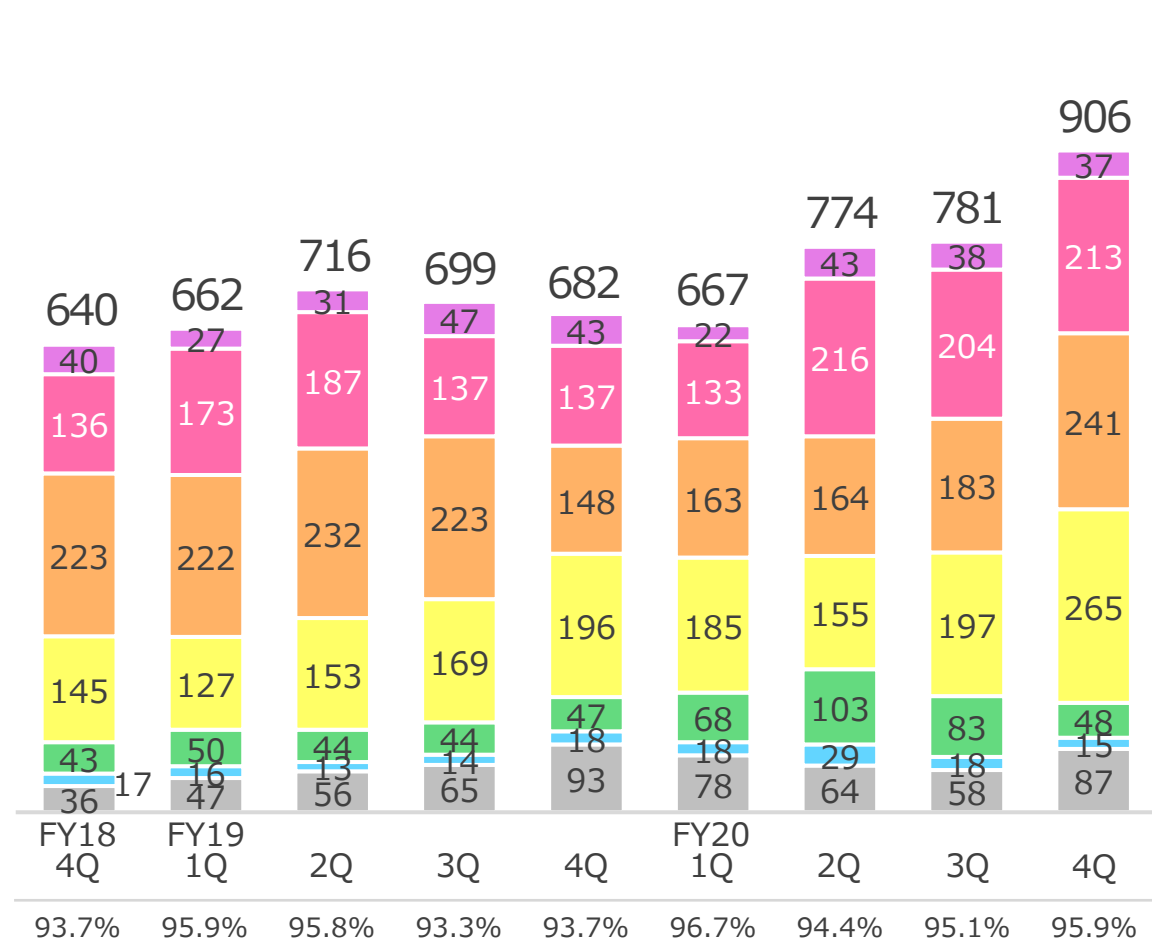
*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

四半期受注高/売上高 地域(出荷先)別

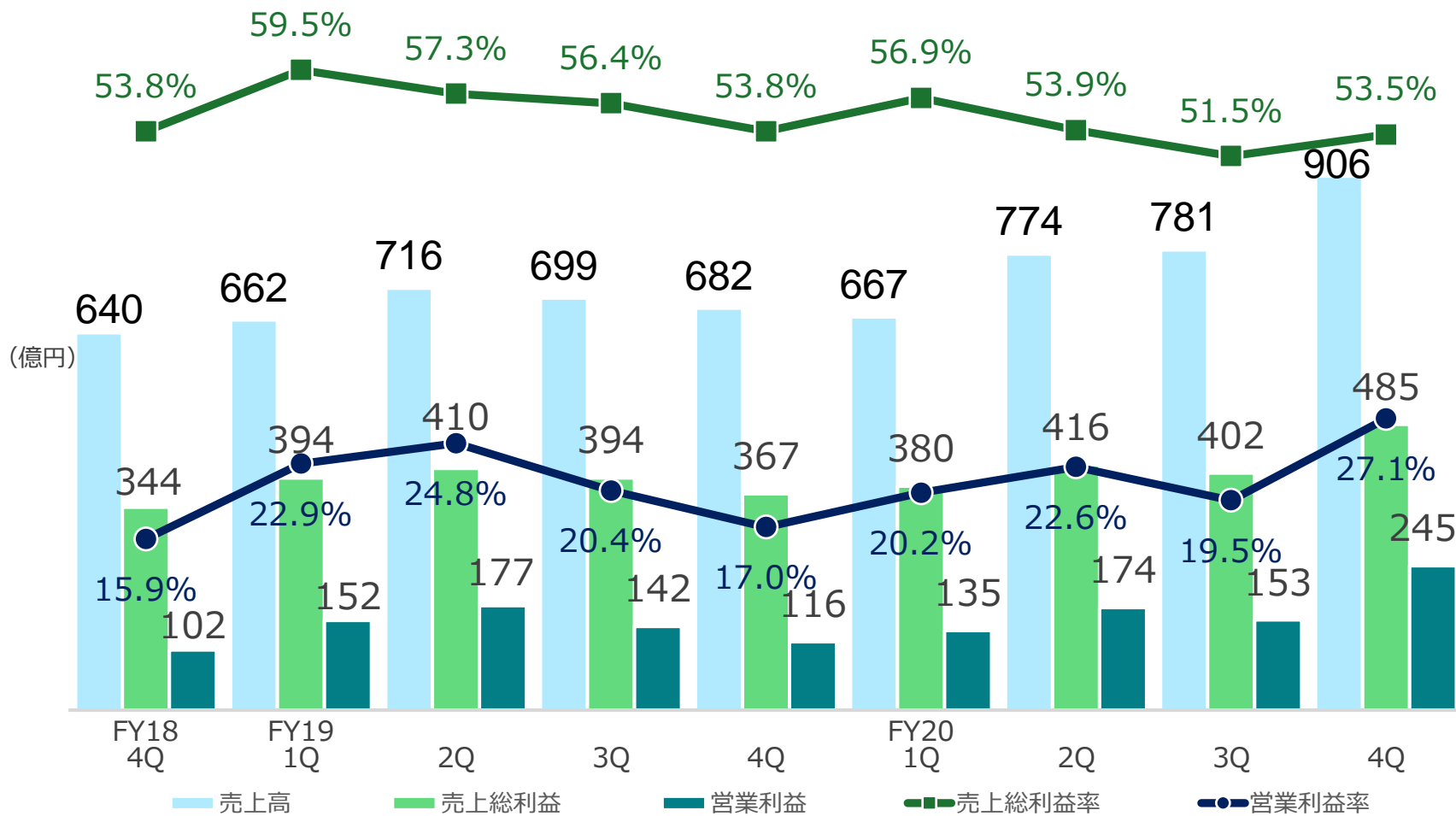
<受注高>



<売上高>



売上高/売上総利益/営業利益



(億円)

	FY19	FY20
売上高	2,759	3,128
売上総利益	1,565	1,683
売上総利益率	56.7%	53.8%
販管費等	978	976
営業利益	587	707
営業利益率	21.3%	22.6%

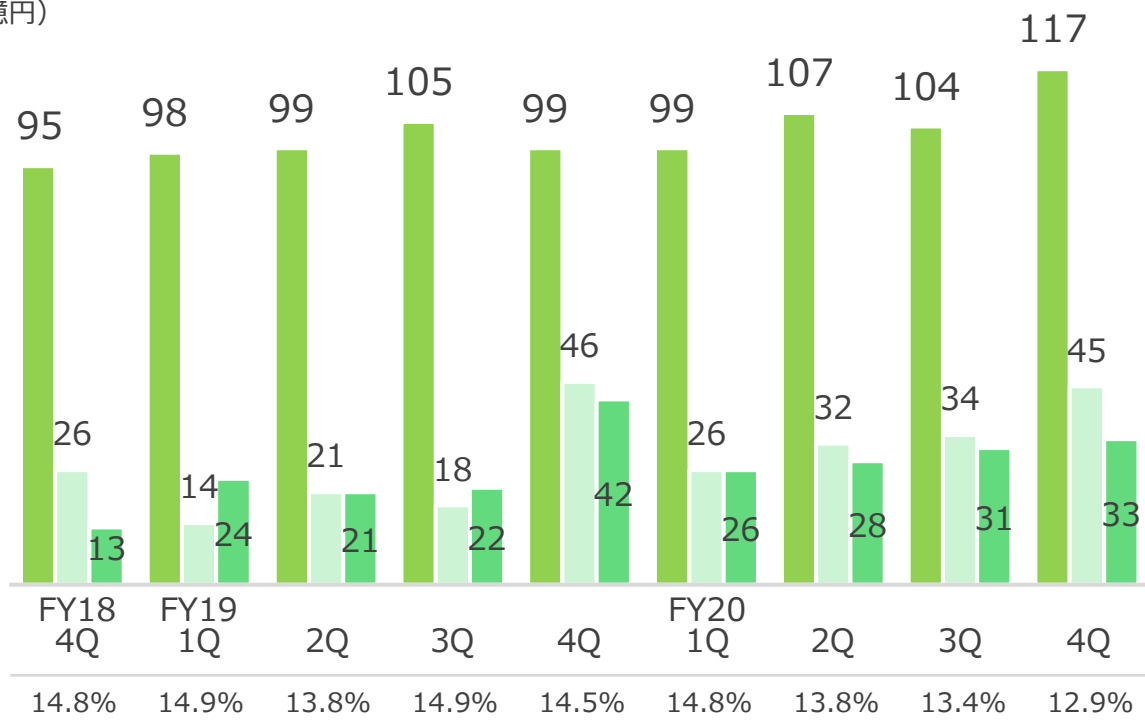
投資等/キャッシュ・フロー

<投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費

	FY19	FY20
研究開発費 売上高比率	401 14.5%	427 13.6%
設備投資	99	137
減価償却費	109	118

(億円)



研究開発費売上高比率

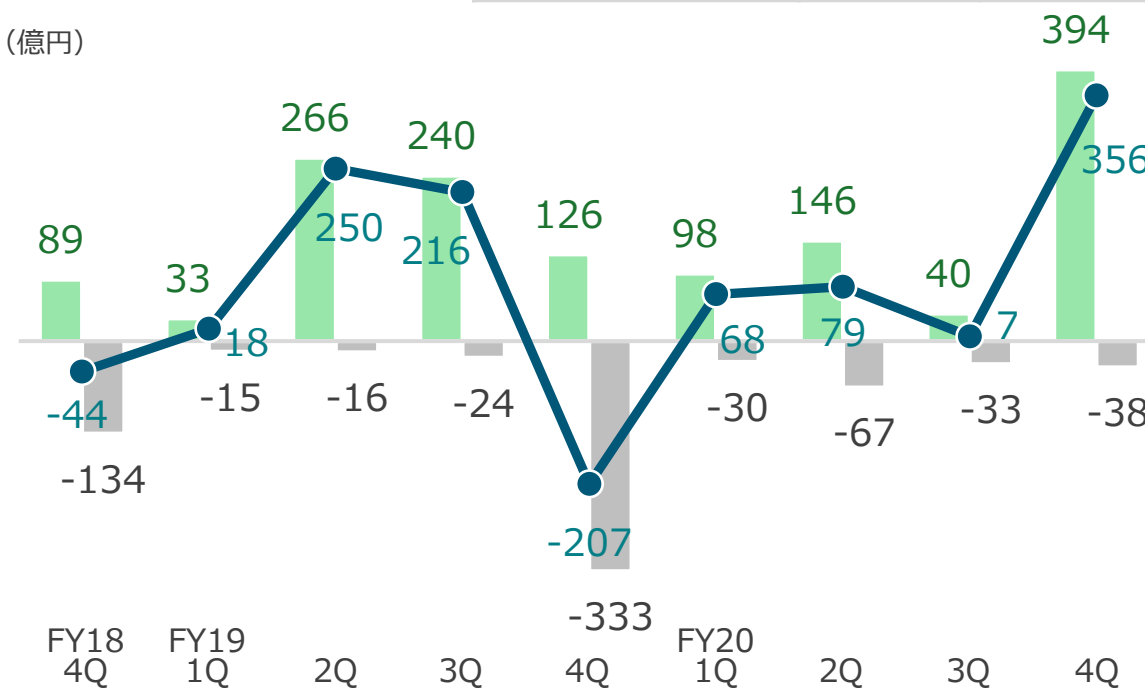
14.8% 14.9% 13.8% 14.9% 14.5% 14.8% 13.8% 13.4% 12.9%

<キャッシュ・フロー>

- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

	FY19	FY20
営業キャッシュ・フロー	665	678
投資キャッシュ・フロー	-388	-168
フリー・キャッシュ・フロー	277	510

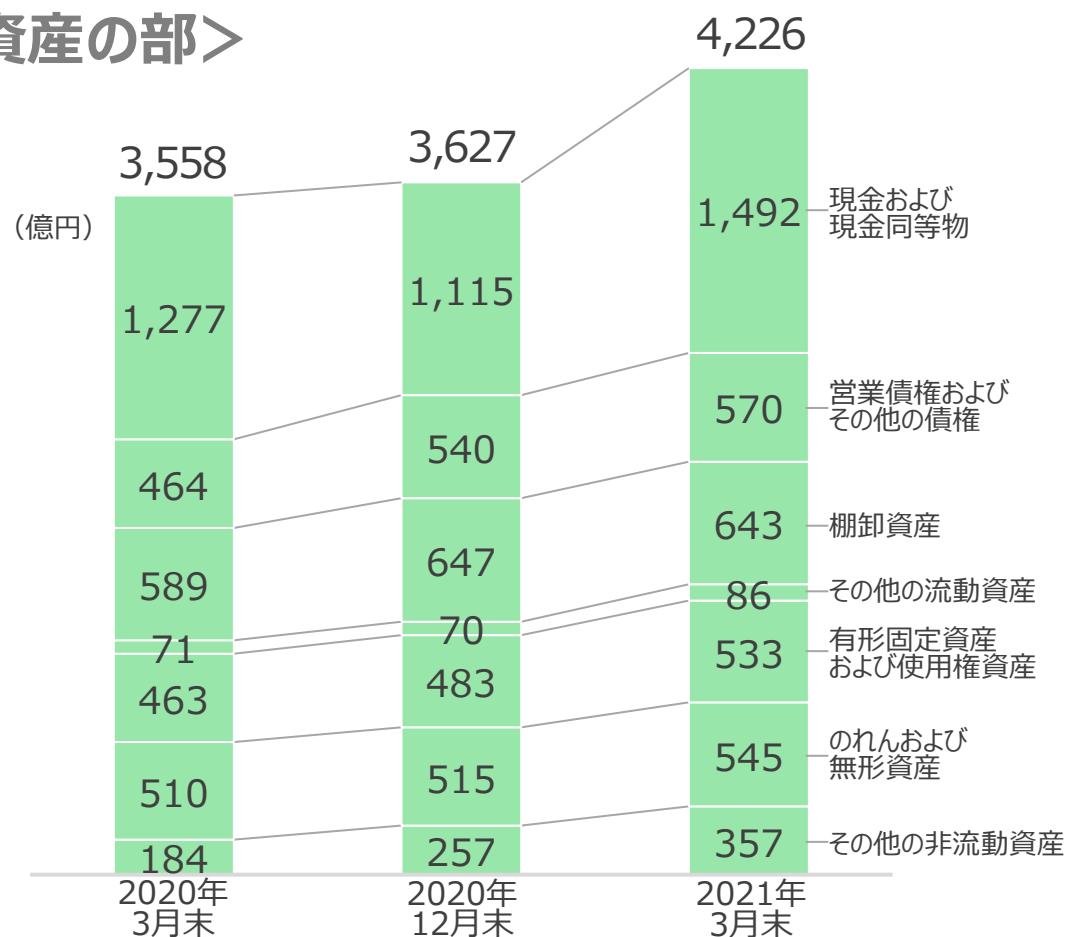
(億円)



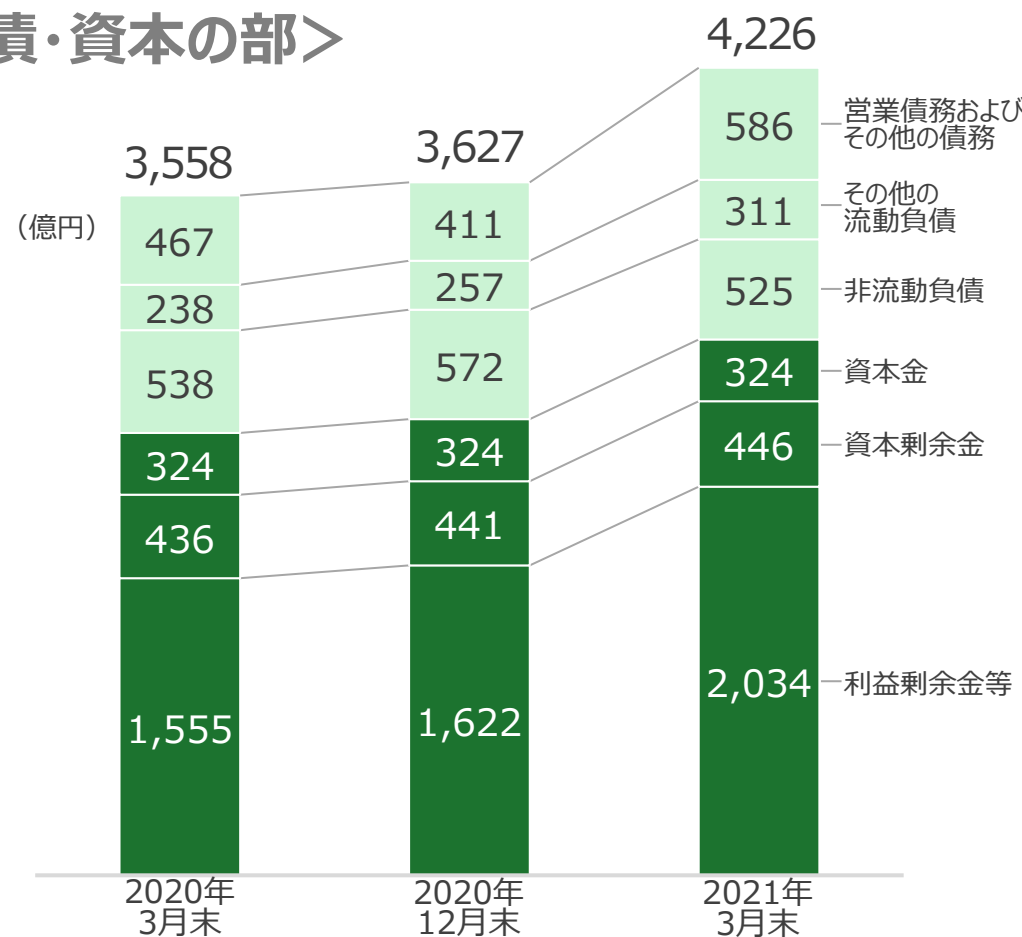
*フリー・キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー + 投資キャッシュ・フロー

連結財政状態

<資産の部>



<負債・資本の部>



親会社の所有者に 帰属する持分	2,315	2,387	2,804
親会社所有者 帰属持分比率	65.1%	65.8%	66.3%

中期経営計画の結果と2021年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

当社の中長期経営方針

「グランドデザイン」(中長期経営方針・FY18-27)

<長期経営目標>

「売上高3,000億円～4,000億円の達成」

- 成長分野へのフォーカス、顧客とのパートナーシップ強化でシェアを年1%ペースで改善 (CY17実績:36%→CY27目標:46%)
- 新規事業として、現在のコアビジネスの周辺分野の開拓

<コスト、利益構造>

- 売上成長を目指すにあたり、コスト構造のバランスにも配慮

	3,000億円レベルでの コスト構造モデル
売上高	3,000億円
売上原価率	46%
売上高販管費比率	32%
(うちR&D費比率)	13%
営業利益率	22%

中期経営計画(FY18-20)

- 製品需要の年ごとのアップダウンは避けられないため、3カ年平均で数値目標を設定
- 新たなテスト需要に卓越したソリューションを提供し、売上高と市場シェアを伸長
- 中長期の売上成長に向け、積極的なR&D投資・M&A
- 半期連結配当性向30%を基本としつつ、成長投資見通しを勘案した上で総株主還元を機動的に検討

	中期経営計画 (FY18-20 平均)	
	保守的シナリオ	ベース・シナリオ
半導体試験装置市場 成長率	年0%	年4%
売上高	2,300億円	2,500億円
営業利益率	15%	17%
ROE	15%	18%
1株当たり当期利益(EPS)	135円	170円

中期経営計画の結果

ベース・シナリオを大きく上回る実績を達成

	FY15-17 平均	中期経営計画 (FY18-FY20 平均)	
		保守的シナリオ	ベース・シナリオ
売上高	1,751億円	2,300億円	2,500億円
営業利益率	9%	15%	17%
ROE	12%	15%	18%
1株当たり当期利益 (EPS)	74円	135円	170円



FY18実績	FY19実績	FY20実績	FY18-20 平均実績
2,825億円	2,759億円	3,128億円	2,904億円
22.9%	21.3%	22.6%	22.3%
35.3%	24.9%	27.3%	29.1%
302円	270円	354円	309円

- デジタル革命の進展により半導体市場、半導体テスト市場が拡大する中で、想定より早いシェアゲイン（CY17全体シェア36%に対し、CY18-20平均は50%）
- グランドデザイン・ビジョンに沿って行った事業拡大、2件のM&Aを行ったSLTビジネスが想定以上に成長し、早期に売上・利益に貢献

半導体テスト市場の動向 <21年4月時点の見方>

CY20実績

- SoCテスト市場：HPC向けでの堅調なテスト需要に加え、スマートフォンメーカーの競争が広範囲なアプリケーションでテスト需要を喚起
- メモリ・テスト市場：データセンターやゲーム機関連を中心とした需要の立ち上がり、中国メモリ投資の拡大で、市場規模拡大

CY21予想

- SoCテスト市場：先端半導体への活発な技術投資を背景に、スマートフォン関連やHPC向けを軸とした需要拡大を予想
- メモリ・テスト市場：微細化、多層化、高速化/広帯域化などの技術投資の進展がテスト需要を牽引

	CY20実績	CY21推定
SoCテスト市場	約\$3,000M (1月時点推定: 約\$2,800M)	約\$3,400M~ (1月時点推定: 約\$2,800M-3,000M)
メモリ・テスト市場	約\$1,200M (1月時点推定: 約\$1,100M)	約\$1,300M~ (1月時点推定: 約\$1,100M-1,300M)

FY21業績予想

(億円)

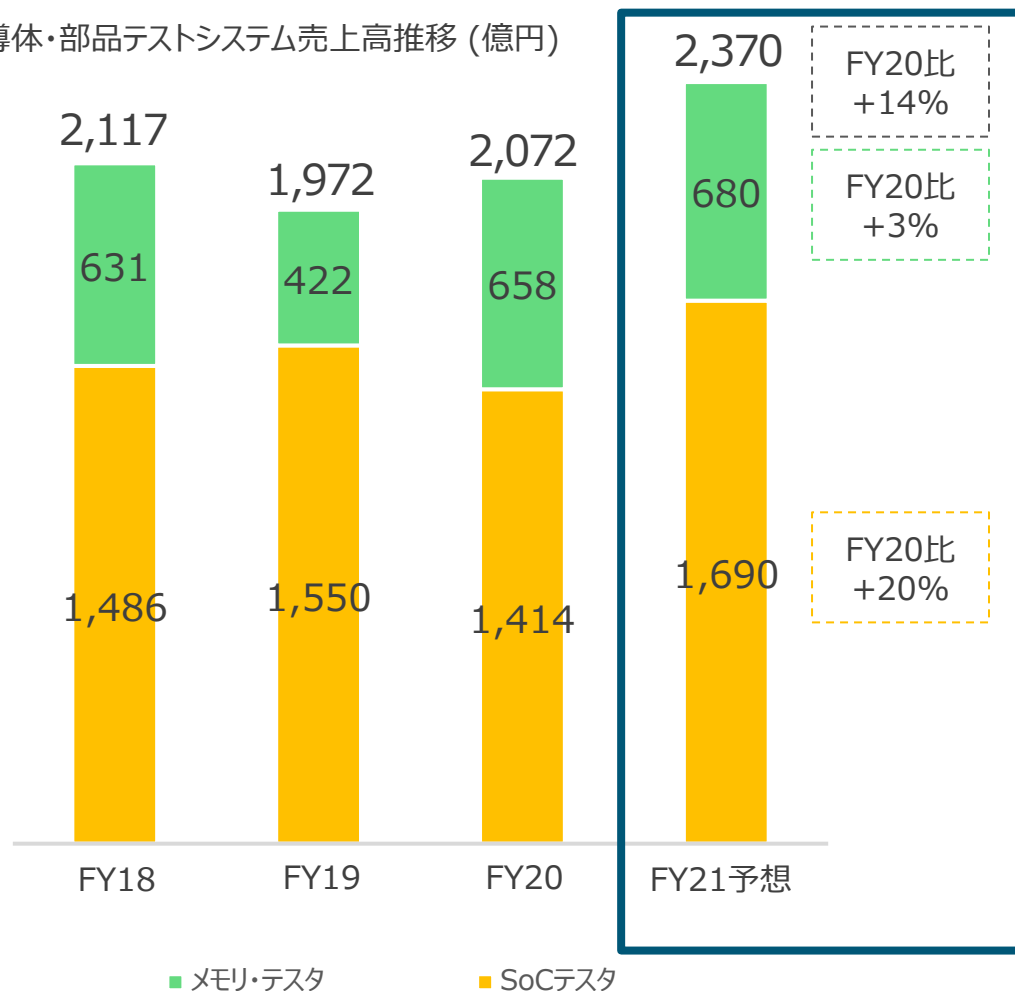
	FY20 実績	FY21 予想	FY21 前年度比	
			増減額	増減率
			受注高	3,306
売上高*1	3,128	3,500	+372	+11.9%
営業利益	707	850	+143	+20.2%
営業利益率	22.6%	24.3%	+1.7pts	
税引前利益	696	850	+154	+22.1%
当期利益	698	640	-58	-8.3%
当期利益率	22.3%	18.3%	-4.0pts	
受注残	1,088	1,088	-	-
研究開発費	427	460	+33	+7.7%
設備投資	137	150	+13	+9.5%
減価償却費	118	135	+17	+14.4%
為替レート*2	1米ドル	106円	105円	1円 円高
	1ユーロ	123円	130円	7円 円安

*1:合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

*2:為替レート変動が今後の営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時+8億円です。対ユーロは-1.5億円です

FY21見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム売上高推移（億円）



半導体・部品テストシステム事業

<SoCテスト>

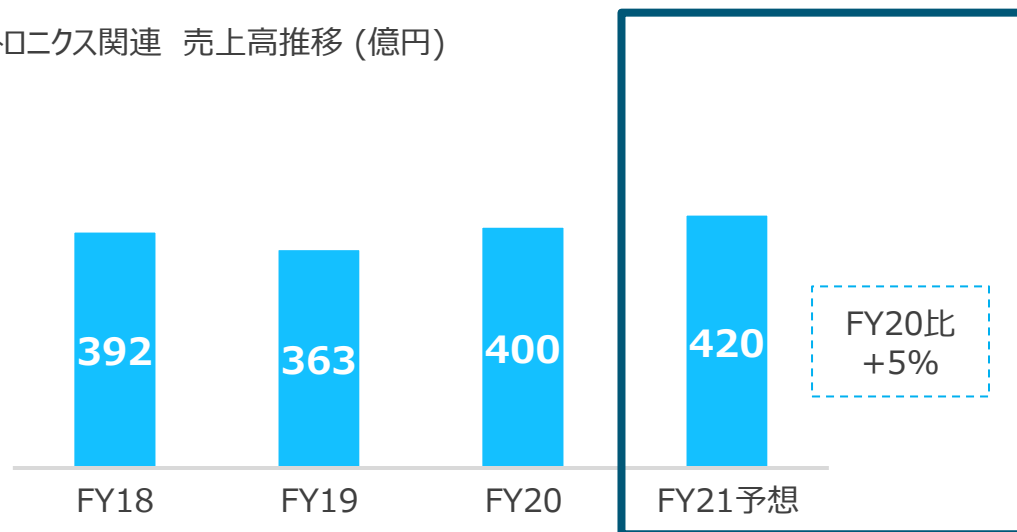
- スマートフォンプレーヤー間の競争が、アプリケーション・プロセッサの先端プロセス移行や有機ELディスプレイ(OLED)採用を促し、テスト需要の伸びを牽引

<メモリ・テスト>

- 顧客の微細化、多層化などの技術投資は21年も継続、高水準な需要の持続を見込む

FY21見通し（事業別）

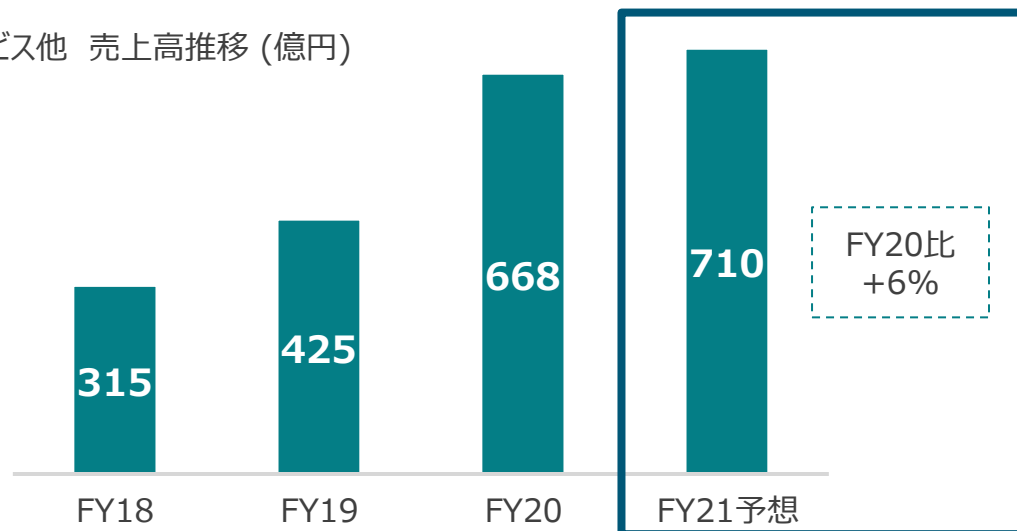
メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



メカトロニクス関連事業

- メモリ・テスト事業と連動し、高水準なインタフェース製品の需要継続を期待

サービス他 売上高推移（億円）



サービス他事業

- システムレベル・テスト事業ではSoC関連での堅調な需要を見込む
- フィールド・サービス事業も設置台数の増加で底堅く推移

FY21の主要施策

- 高性能かつ高い信頼性を求められる半導体の増加がテスト需要を中長期にわたり拡大する中、高付加価値な半導体試験ソリューションの開発、システム/モジュール・レベルでのテスト・ソリューション分野の深耕を推進
- 足元の高水準な受注や今後の需要拡大に対応するため生産・サポート体制を整備
- The Advantest Wayの浸透や人財開発を通じ、グローバルレベルでオペレーショナルエクセレンスの基盤を強化
- ESG経営の高度化を継続
- 今年度から始まる新中期経営計画については、来月説明会を実施